

学校新聞

令和元年度
「薫風」第5号

3月25日

(水)

薫風

～緑新たに風も薫れり～



発行元 東京都立大崎高等学校全日制課程 〒142 - 0042 品川区豊町 2 - 1 - 7

思い出深い卒業式

校長 豊岡 耕一郎

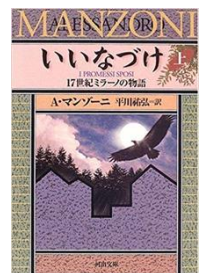
今年度の卒業式は、新型コロナウイルス感染症で開催も危ぶまれたところでしたが、3月7日（土）に無事実施することができました。保護者や在校生とともに盛大にお祝いすることはできませんでしたが、教職員一丸となって準備を進め、私たちが見守る中、3年生は立派に巣立っていきました。最後の退場の際、教職員が作った花道の中を照れながらも堂々と退場していく様子が印象的でした。この3年生の雄姿を在校生に見せることができなかつたことは残念でしたが、いよいよ次は2年生の番です。悔いが残らないよう精いっぱいやり切つて、この時を迎えてください。



見えない（わからない）ことへの恐さ、

今、世界的に新型コロナウイルス感染症が広がっていて、非常事態宣言や外出禁止令が出るなど、各国とも逼迫した対応を求められています。国内でも感染の勢いは衰えず、学校が休校になって友達と会えなくなつたり、部活ができなかつたり、思う存分遊びに行くことができなかつたりと、皆さんも憂鬱な日々を過ごしていることでしょう。私自身も、これほどの期間、学校で生徒の声が聞こえないという経験はしたことがなく、心が晴れない日々を過ごしています。普段通りの学校生活が送れることがどれほど幸せなことであるかを改めて実感しているところです。

さて、今回のウィルスがこのような世界的騒動となっているのは、これが未知のウィルスで、伝播方法とか、予防方法、治療方法がよくわかっていないからです。10年前にも新型インフルエンザがはやり、感染率や致死率が大きな問題になりましたが、医療体制が整備されていたため、ここまで大きな社会問題には至りませんでした。このわからないことへの不安がパニックを引き起こしています。マスクや消毒液だけでなく、原材料が無くなるというデマから、トイレトペーパーやティッシュが売り場から消えたり、車内でせきをただけでけんかになってしまつたりとか、ヒステリックな行動が目につきます。もっと正しく恐れて、冷静に対応することが必要です。そのためには情報を正しく読み解く力が必要です。今は検索をかければ調べることができますが、ネットにあふれている多くの記事は不確かなものが多く、特にまとめの記事などは、真実が何であるかではなく、刺激的な言葉を並べることで、読者の興味関心を引くことを最重要視しているところがあります。読者側も、自分にとって都合のいい、面白い情報だけに注目して、正しいかどうかもわからないのに拡散させてしまう傾向も見受けられます。このような状況を、皆さんにどう伝えるべきか考えていたところ、ミラノ市内の高校の校長先生がHPに掲載した生徒への手紙を目にしました。これには、17世紀のペスト流行について扱ったマンゾーニの小説を引用して「冷静になつていつもと同じ生活をしてください。社会を守るためにどうしたらいいか正しく考えましょう」と書かれています。外国人を危険視し、感染者を狩り、デマに翻弄され、必需品を買いあさり、愚かな治療を試す等々、今起きていることが、17世紀の小説の中に既に書かれていて、非常に興味深いものです。この機会にぜひ手に取つてみてください。それでは皆さん、この危機を上手に乗り切り、元気で新学期を迎えましょう。



「いいなづけ」河出文庫より